

パネルディスカッション5 企画概要

タイトル	在宅における「老年症候群」の認知症、腰痛症を鍼灸にて対応
------	------------------------------

概要

超高齢社会に突入し多死社会へと向かっているわが国において、少しでも高齢者ご自身が望む、自分らしい暮らしを医療・介護・保健などの多職種の一員として、在宅患者さんの「生活の質」の向上を目指し、癒す医療・支える医療をより充実できる選択肢に「はり・きゅう」は活用できます。

1. 擦過鍼（さっかしん）を使った認知症周辺症状の緩和と介護負担の軽減

擦過鍼による軽微な皮膚への刺激は、血行を促し、知覚神経が刺激されることで、脳血流の増加を促し、自律神経のバランスが整えられる体性-自律神経反射の応用である。

2. 腰痛—生物心理社会的疼痛症候群—に対する鍼灸の一考察

日本人の8割以上が生涯において腰痛を経験していると言われている。その予後に関しては、腰痛は生涯にわたり再発を繰り返すことが少なくないと認識されている。

近年、腰痛は内臓疾患や形態学的異常があるものを除いて、生物心理社会的疼痛症候群として考えられるようになってきた。生物心理社会的疼痛症候群としての腰痛については、身体的・心理的・社会的・経済的などのストレスが要因の一つと考えられている。

3. 東京都における、はり・きゅうの保険を適用し、在宅での腰痛症の緩和施術数

東京都鍼灸師会における、在宅でのはり・きゅう施術についてのデータを発表します。在宅生活で活動範囲が限られている方々の多くに腰や膝関節の痛み、神経痛などが多くあがっている。